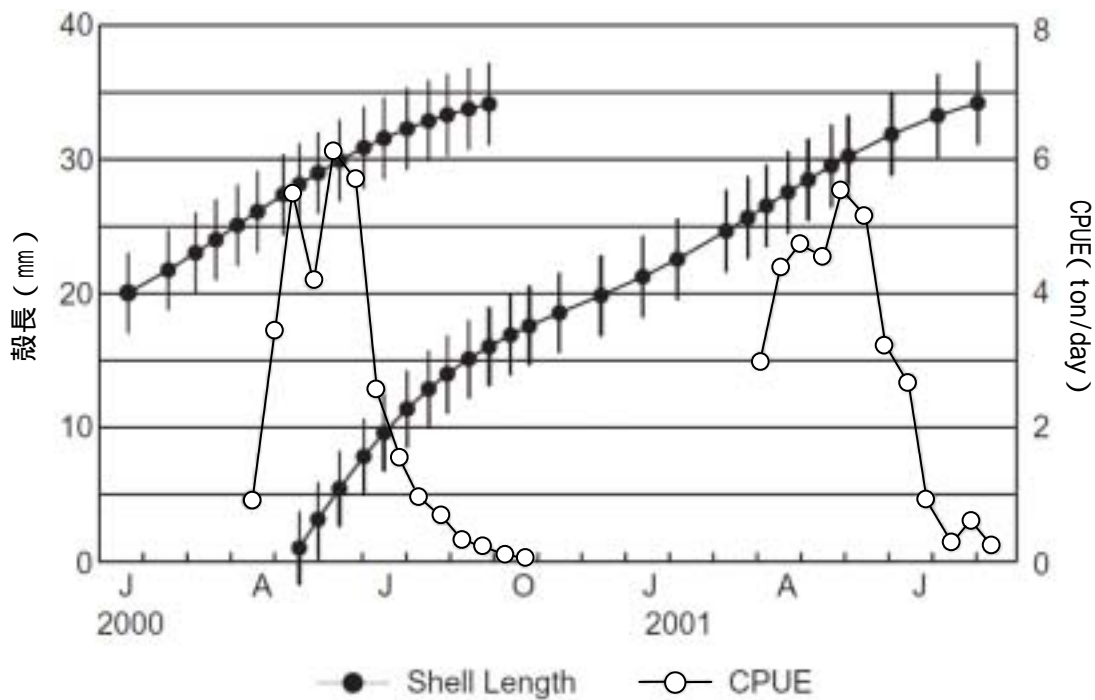


別添資料39：アサリ資源と漁獲との関係について

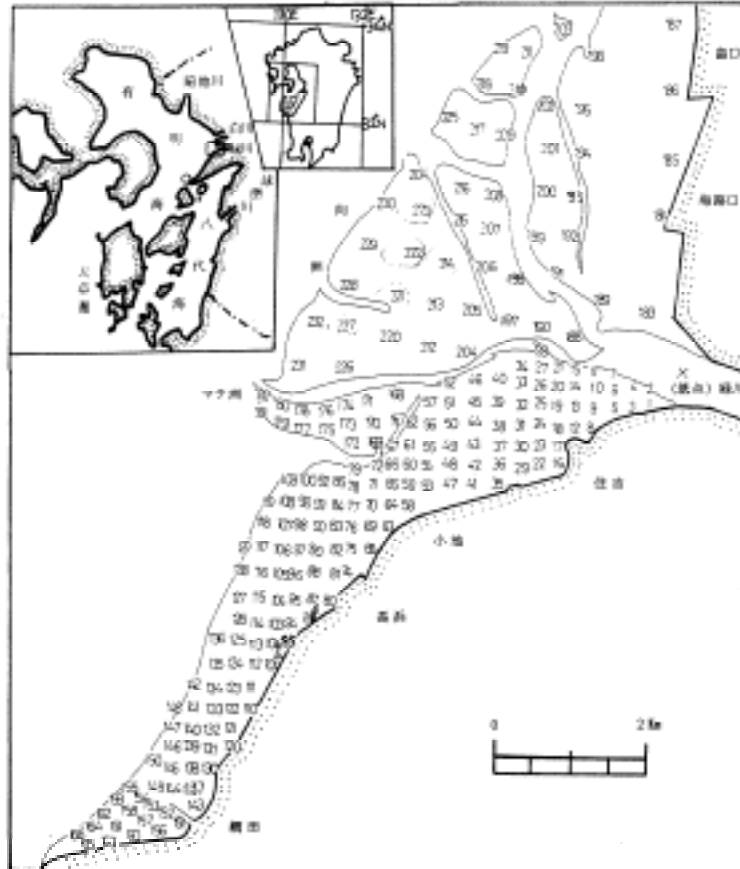
- ・ 緑川河口域（A 漁協）では、殻幅 13mm 以上のアサリを 4 月から漁獲している。
- ・ 近年の緑川河口域において、春発生群は約 1 年後には殻長 28mm、殻幅 12mm 前後までに成長することから、漁場加入後約 1 年で漁獲可能サイズとなる（図 42）。
- ・ 漁期スタートの 4 月には、前年春生まれ群の成長の早いものから順次漁獲し始め、アサリの多くが漁獲対象サイズとなる 5 月に漁獲がピークとなる。その後、7 月以降漁獲量は急激に減少し、ノリ漁期が始まる 10 月には漁期が終了している（図 42）。
- ・ A 漁協における 2000 年の 1 日あたり漁獲量の推移をもとに初期資源量を推定した結果、資源量の 98% 以上を漁獲していたとの結果が得られた（未発表）。このことは、毎年、前年の春発生群を 1 歳の春から秋までの間にほぼ取り尽くしてその年の漁期を終了していることを示している。
- ・ なお、1970 年代から 1980 年代にかけて、熊本県においてはアサリ稚貝（殻長 21mm、殻幅 9mm）が漁獲され、全国に出荷されていたことから、当時、多くのアサリが再生産に寄与できなかったことが示唆される。



資料：中原康智、那須博史（2002）：主要アサリ産地からの報告 - 有明海熊本県沿岸, 日本ベントス学会誌, Vol. 57 No. 1, pp. 139-144)

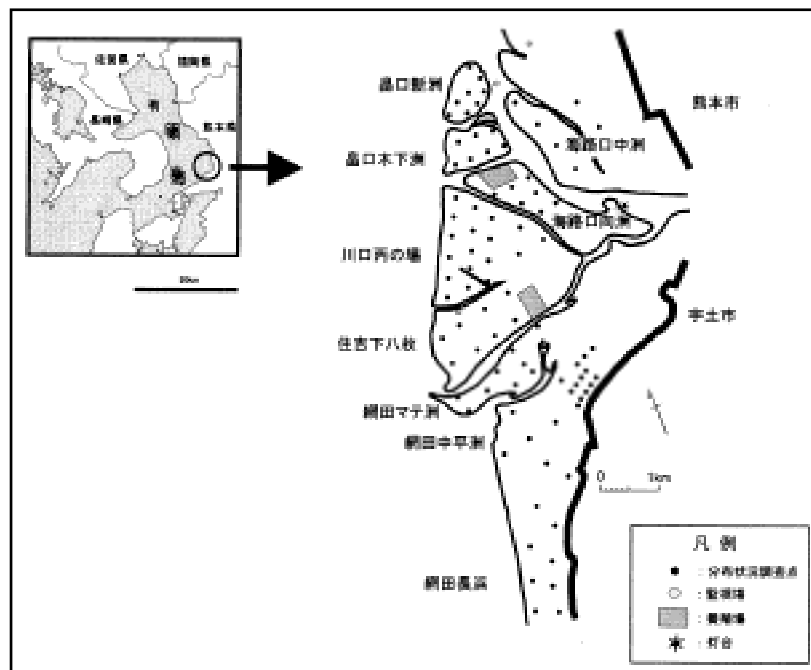
図 42 アサリの殻長と CPUE(1 日当たりの平均漁獲量)の推移

別添資料40：熊本県緑川河口の干潟調査地点



資料：熊本県資料

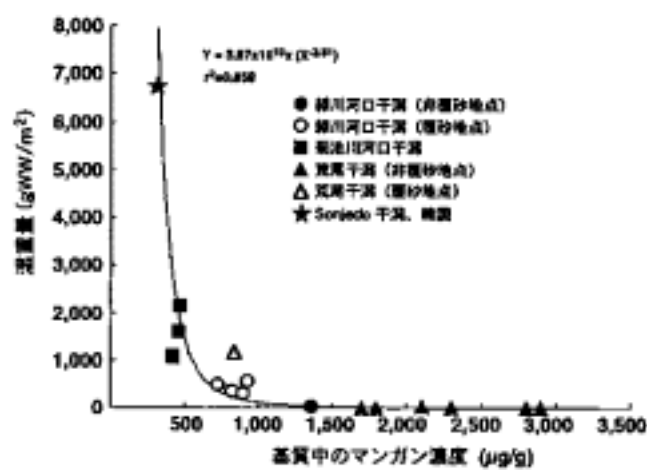
図 43 熊本県緑川河口の干潟調査地点：1981年（昭和56年）



資料：熊本県資料

図 44 熊本県緑川河口の干潟調査地点：1994年（平成6年）以降

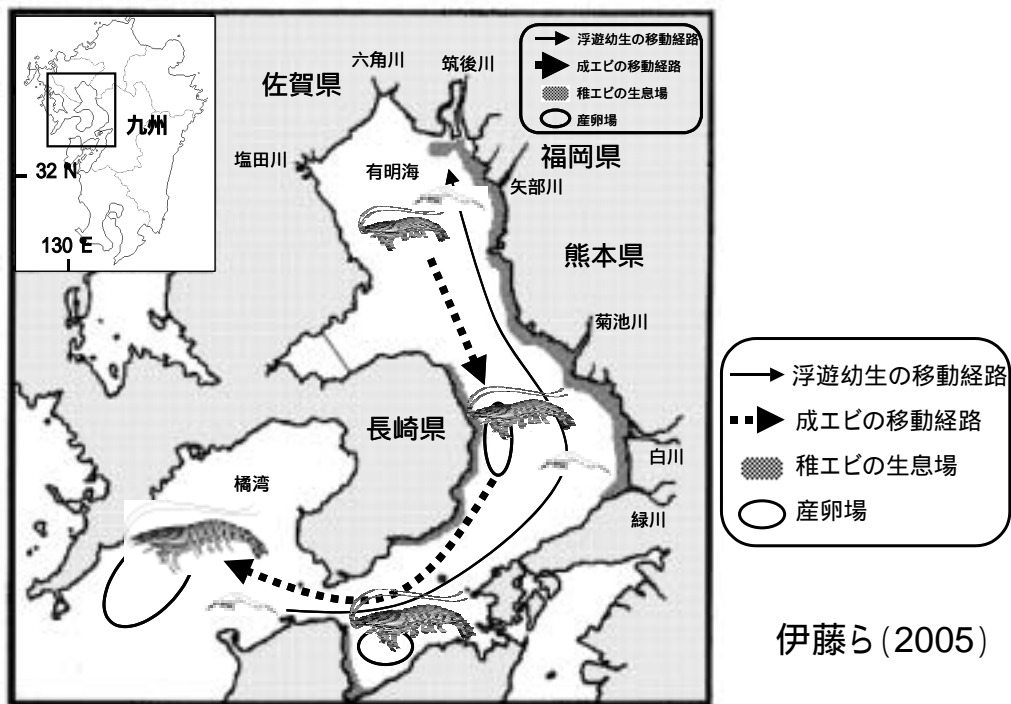
別添資料41：干潟のマンガン濃度とアサリの生物量の関係



資料：堤裕昭(2005)：干潟の底質環境の変化とベントス群集への影響-有明海の砂質干潟を例として-, 月刊海洋, Vol.13, No.2, pp.107-115

図 45 干潟の基質のマンガン濃度と棲息するアサリの生物量の関係

別添資料42：クルマエビの産卵場所と稚エビの出現場所



出典：中田英昭(2005)「第17回有明海・八代海総合調査評価委員会 資料-2 水産資源に関するとりまとめ(2) 主に魚類資源について」

図 46 クルマエビの産卵場所と稚エビの出現場所